



2009～10年度のための

地区協議会 記録

2009-10年度RIテーマ



「ロータリーの未来は あなたの手の中に」

目 時 2009年5月10日(日)

場 所 紀南文化会館 他

国際ロータリー第2640地区

ガバナーエレクト 村 上 有 司

ガバナー 勝 野 露 観



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640

2009－2010年度のための地区協議会 記録

目 次

	プログラム	1
	部門別協議会分担表	2
	地区役員・幹事出席表	3
	地区委員会出席表	4
[全 体 会 議]	開会	5
	村上ガバナーエレクト挨拶と紹介	5
	勝野露観ガバナー挨拶	6
	2009－2010 年度の方針について	7
[部門別協議会]	会長部門	12
	幹事部門	19
	クラブ奉仕部門	
	（会員増強）	26
	（雑誌広報・IT）	34
	職業奉仕部門	40
	社会奉仕部門	44
	新世代部門	50
	国際奉仕部門	59
	財団部門	68
	米山部門	75
[全 体 会 議]	部門別協議会報告と講評	80
[資 料]	2640 地区組織図	88
	地区委員会 組織表	89
	ガバナー補佐一覧	90
	IM開催予定	91
	公式訪問予定	92

2009～10年度のための

地区協議会

日時：2009年5月10日（日）

会場：紀南文化会館他

プログラム

9：40～10：30	登録・受付		
	全体会議	司会	古谷 典子
10：30～10：35	開会点鐘	ガバナーエレクト	村上 有司
	国歌・奉仕の理想 斉唱	ソングリーダー	鎌塚 晋作
10：35～10：50	挨拶と来賓紹介	ガバナーエレクト	村上 有司
	ガバナー・パストガバナー・ガバナーノミニー・次期ガバナー補佐 地区委員長他紹介		
10：50～11：00	ガバナー挨拶	ガバナー	勝野 露観
11：00～11：40	2009～10年度の方針について	ガバナーエレクト	村上 有司
11：40～12：50	9会場へ移動・昼食		
	3委員会はバスにてホテルハナヨへ移動		
12：50～14：50	部門別協議会 （9会場）		
	会長部門（ホテルハナヨ 6F）		
	幹事部門（商工会議所 3F）		
	クラブ奉仕部門（職業訓練 3F）		
	職業奉仕部門（文館小ホール）		
	社会奉仕部門（文館 4F 研修）		
	新世代部門（ホテルハナヨ 2F）		
	国際奉仕部門（青少年研修センター）		
	ロータリー財団部門（ホテルハナヨ 2F）		
	米山部門（市役所 3F）		
14：50～15：30	移動 全体会議場へ（紀南文化会館）		
15：30～17：00	全体会議	カウンセラー	
	部門別協議会報告と講評	パストガバナー	
17：00～17：15	手にてつないで	ソングリーダー	鎌塚 晋作
17：15～17：20	謝辞・閉会点鐘	ガバナーエレクト	村上 有司

地区協議会 部門別協議会分担表

部門	場所	アドバイザー・カウンセラー	ガバナー補佐・委員長
会長部門	ガーデンホテル ハナヨ6F	バストガバナー 小島 哲 バストガバナー 平尾 寧章 ガバナーエレクト 村上 有司 ガバナーノミニー 米田真理子	IM1組ガバナー補佐 坂口 富茂 IM8組ガバナー補佐 山田 義夫 クラブ拡大委員長 豊澤洋太郎
幹 事	商工会議所 3F	バストガバナー 月山 和男 バストガバナー 中村 幸吉 情報・規定アドバイザー 上野山英樹	IM2組ガバナー補佐 沖殿 正博 IM6組ガバナー補佐 小西喜代一 情報・規定委員長 西尾 幸祐
クラブ奉仕 (会員増強)	職業訓練 センター3F	バストガバナー 成川 守彦 アドバイザー 小林 信夫	IM7組ガバナー補佐 榎本 主税 会員増強(退会防止)委員長 倉 保雄
クラブ奉仕 (雑誌・IT)	職業訓練 センター3F	バストガバナー 平岡 正巳 アドバイザー 寺下 卓	IM2組ガバナー補佐 川村 克人 雑誌・広報委員長 河合 真吾 IT委員長 大村 充
職業奉仕	紀南文化会館 小ホール	バストガバナー 瀬戸 新一 ガバナー 勝野 露観 アドバイザー 角谷 浩二	IM7組ガバナー補佐 松生 満 職業奉仕委員長 北岡 満
社会奉仕	紀南文化会館 4F研修室	バストガバナー 前田 孝道 バストガバナー 前窪 貫志 アドバイザー 笹島 良雄	IM3組ガバナー補佐 神谷 尚孝 IM5組ガバナー補佐 辻 知昭 社会奉仕委員長 谷脇 良樹
新 世 代	ガーデンホテル ハナヨ2F	バストガバナー 楠 公延 バストガバナー 平原 祥彰 アドバイザー 瀧 成和	IM5組ガバナー補佐 山本 正明 青少年・ライラ委員長 丸山 信仁 ローターアクト委員長 中西 秀文 インターアクト委員長 竈 和夫
国際奉仕	青少年研修 センター	バストガバナー 中島治一郎 バストガバナー 大澤 徳平 アドバイザー 京谷 知明 アドバイザー 北島 一樹	IM4組ガバナー補佐 西山 利昭 IM8組ガバナー補佐 三村 文男 世界社会奉仕委員長 中野 一郎 青少年交換委員長 豊岡 敬 オン・ツウ・モントリオール委員長 田上 雅信
財 団	ガーデンホテル ハナヨ2F	バストガバナー 三軒 久義 バストガバナー 亀岡 弘	IM6組ガバナー補佐 山本 昇三 ロータリー財団委員長 岩本 行弘 財団奨学金小アドバイザー 吉野 惣太 財団奨学金小委員長 初田 隆生 財団研究グループ交換小委員長 中川 優 財団学友小委員長 高寺 壽
米 山	市役所3F	バストガバナー 水田 博史 カウンセラー補佐 松下 光春 アドバイザー 河合 利晴	IM3組ガバナー補佐 小門 薫子 IM8組ガバナー補佐 山本 久 米山記念奨学委員長 浦口 英尚

09－10年度のための地区協議会 地区役員・幹事出席表

役職	氏名	所属クラブ	出欠
ガバナー	勝 野 露 観	和泉	○
パストガバナー	月 山 和 男	和歌山南	○
パストガバナー	中 島 治一郎	泉大津	○
パストガバナー	平 岡 正 已	羽衣	○
パストガバナー	瀬 戸 新 一	御坊	欠
パストガバナー	大 澤 徳 平	堺	○
パストガバナー	楠 公 延	高野山	欠
パストガバナー	中 村 幸 吉	富田林	○
パストガバナー	亀 岡 弘	泉南	○
パストガバナー	成 川 守 彦	有田	○
パストガバナー	水 田 博 史	岸和田東	○
パストガバナー	前 田 孝 道	和歌山東南	○
パストガバナー	小 島 哲 哲	泉大津	○
パストガバナー	前 窪 貫 志	和歌山南	○
パストガバナー	平 尾 寧 章	海南東	○
パストガバナー	三 軒 久 義	河内長野東	○
直前ガバナー	平 原 祥 彰	粉河	○
ガバナーエレクト	村 上 有 司	田辺	○
ガバナーノミニ	米 田 眞理子	堺フェニックス	○

次期ガバナー補佐	組	氏名	所属クラブ	出欠
	1組			
	1組	坂 口 富 茂	田辺はまゆう	○
	2組	川 村 克 人	有田	○
	2組	沖 殿 正 博	海南	○
	3組	小 門 薫 子	和歌山アゼリア	○
	3組	神 谷 尚 孝	和歌山東南	○
	4組	西 山 利 昭	高野山	○
	5組	山 本 正 明	羽曳野	○
	5組	辻 知 昭	河内長野東	○
	6組	山 本 昇 三	泉南	○
	6組	小 西 喜代一	貝塚	○
	7組	松 生 満	忠岡	○
	7組	檉 本 主 税	大阪金剛	○
	8組	山 田 義 夫	堺	○
	8組	山 本 久 久	堺南	○
	8組	三 村 文 男	堺フェニックス	○

地区代表幹事	桃 田 隆 彦	和泉	○
ホストクラブ会長	新 井 康 司	田辺	○
地区協議会委員長	辻 啓次郎	田辺	○
地区協議会副委員長	山 本 博 章	田辺	○
次期地区代表幹事	吉 田 透	田辺	○
次期地区副代表幹事	高 橋 武 雄	田辺	○
次期地区副代表幹事	津 村 寛 司	田辺	○
次期地区副代表幹事	坪 井 敏 行	田辺	○
次期地区副代表幹事	廣 本 喜 亮	田辺	○
次期地区副代表幹事	古久保 和 彦	田辺	○
次期地区幹事 (クラブ幹事)	植 田 英 明	田辺	○
次期地区幹事	長 井 保 夫	田辺	○
次期地区幹事	中 松 村 夫	田辺	○
次期地区幹事	市 木 栄之助	田辺	○
次期地区幹事	大 川 敏 彦	田辺	○
次期地区幹事	柴 田 隆 至	田辺	○
次期地区幹事	木 村 勝 次	田辺	○
次期地区幹事	瀬 戸 英 男	田辺	○
次期地区幹事	笹 野 吉 信	田辺	○
次期地区幹事	木 下 幾 雄	田辺	○
次期地区幹事	三 前 剛	田辺	○
次期地区幹事	阪 本 哲 次	田辺	○
次期地区幹事	木 村 頼 文	田辺	○
次期地区幹事	稲 田 太 門	田辺	○

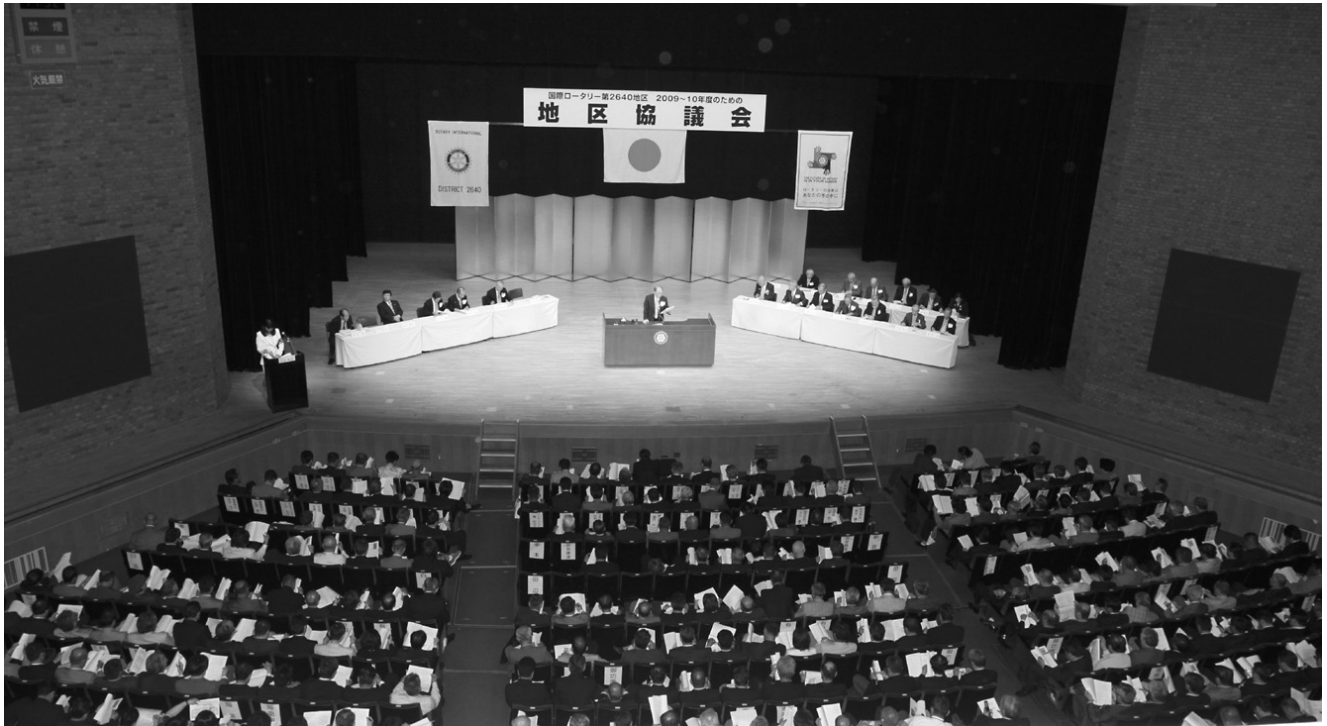
役職	氏名	所属クラブ	出欠
次期地区幹事	横 田 達 夫	田 辺	○
次期地区幹事	寒 川 真 典	田 辺	○
次期地区幹事	伊 賀 久 記	田 辺	○
次期地区幹事	竹 内 正 巳	田 辺	○
次期地区幹事	皆 瀬 正 夫	田 辺	○
次期地区幹事	大 木 誠 治	田 辺	○
次期地区幹事	小 川 豊 介	田 辺	○
次期地区幹事	荷 稻 實 作	田 辺	○
次期地区幹事	鎌 塚 晋 作	田 辺	○
次期地区幹事	野 村 富 也	田 辺	○
次期地区幹事	矢 野 好 洋	田 辺	○
次期地区幹事	古 谷 典 子	田 辺	○
次期地区幹事	楠 玲 子	堺フェニックス	○

09－10年度のための地区協議会 地区委員会出席表

委員会名	氏名	所属クラブ	出欠
会員増強（退会防止）アドバイザー	小 林 信 夫	和泉南	○
“ 委員長	倉 保 雄	堺	○
雑誌・広報アドバイザー	川 村 克 人	有田	○
“ 委員長	河 合 真 吾	河内長野東	○
“ 委員（ロータリーの友地区委員）	廣 本 喜 亮	田 辺	○
ITアドバイザー	寺 下 卓	海南東	○
“ 委員長	大 村 充	太子	○
職業奉仕アドバイザー	角 谷 浩 二	泉南	○
“ 委員長	北 岡 満	富田林	○
“ 委員	辻 林 俊 彦	和泉南	○
社会奉仕アドバイザー	笹 島 良 雄	和歌山東	○
“ 委員長	谷 脇 良 樹	海南東	○
“ 委員	阪 口 洋 一	海南東	○
“ 委員	福 岡 重 弘	粉河	○
“ 委員	福 田 資 人	松原	○
“ 委員	坂 東 剛	高石	○
“ 委員	本 田 耕 二	田辺東	○
“ 委員	大 林 久 夫	和歌山南	○
青少年ライラアドバイザー	瀧 成 和	富田林	○
“ 委員長	丸 山 信 仁	御坊	○
ローターアクト委員長	中 西 秀 文	海南東	○
インターアクト委員長	竈 和 夫	大阪金剛	○
世界社会奉仕アドバイザー	京 谷 知 明	堺フェニックス	○
“ 委員長	中 野 一 郎	堺フェニックス	○
青少年交換アドバイザー	北 島 一 樹	河内長野	○
“ 委員長	豊 岡 敬	富田林	○
オン・ツウ・モントリオール委員長	田 上 雅 信	田 辺	○
ロータリー財団委員長	岩 本 行 弘	富田林南	○
財団奨学金小アドバイザー	吉 野 惣 太	堺泉ヶ丘	○
“ 委員長	初 田 隆 生	和歌山北	○
財団研修グループ交換小委員長	中 川 優	堺東南	○
“ 副委員長	山 本 唯 二	和歌山東南	○
財団学友小委員長	高 寺 壽	泉大津	○
“ 委員	川 端 健 夫	太子	○
米山奨学部門カウンセラー補佐	松 下 光 春	泉南	○
米山記念奨学アドバイザー	河 合 利 晴	岸和田東	○
“ 委員長	浦 口 英 尚	和歌山城南	○
クラブ拡大委員長	豊 澤 洋 太 朗	和歌山中	○
ロータリー情報・規定アドバイザー	上野山 英 樹	有田	○
“ 委員長	西 尾 幸 祐	堺おおいずみ	○

国際ロータリー第2640地区 2009-2010年度のための

地区協議会 全体会議



司会／古谷典子：

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。ただ今から国際ロータリー第2640地区2009-2010年度のための地区協議会全体会議を開催致します。

本日の進行を努めさせて頂きます私は、田辺ロータリークラブ 古谷と申します。どうぞよろしくお願い致します。

それでは開会の点鐘を村上有司ガバナーエレクト、お願い致します。



村上有司ガバナーエレクト(以下村上GE)：
それではただ今から地区協議会を開会致します。心を込めて点鐘致します。(点鐘)

古谷：

続いて『国歌』、『奉仕の理想』斉唱。どうぞ皆様、ご起立下さい。指揮は田辺ロータリークラブ 鎌塚晋作ソングリーダーにお願いします。(『国歌』斉唱)(『奉仕の理想』斉唱)

次にご挨拶とご来賓のご紹介を、村上ガバナーエレクトより頂きます。

村上GE :

それでは本日、遠路ご出席を頂いておりますまずはパストガバナーの皆様方をご紹介させていただきます。

勝野 露 観 ガバナー
月山 和 男 パストガバナー
中島 治一郎 パストガバナー
平岡 正 己 パストガバナー
大澤 徳 平 パストガバナー
中村 幸 吉 パストガバナー
亀岡 弘 パストガバナー
成川 守 彦 パストガバナー
水田 博 史 パストガバナー
前田 孝 道 パストガバナー
小島 哲 パストガバナー
前窪 貫 志 パストガバナー
平尾 寧 章 パストガバナー
三軒 久 義 パストガバナー
平原 祥 彰 直前ガバナー
米田 眞理子 ガバナーノミニー

続きまして次期ガバナー補佐の皆様をご紹介致します。

坂口 富 茂 ガバナー補佐 (1組)
川村 克 人 ガバナー補佐 (2組)
沖殿 正 博 ガバナー補佐 (2組)
小門 篤 子 ガバナー補佐 (3組)
神谷 尚 孝 ガバナー補佐 (3組)
西山 利 昭 ガバナー補佐 (4組)
山本 正 明 ガバナー補佐 (5組)
辻 知 昭 ガバナー補佐 (5組)
山本 昇 三 ガバナー補佐 (6組)
小西 喜代一 ガバナー補佐 (6組)
松生 満 ガバナー補佐 (7組)
樫本 主 税 ガバナー補佐 (7組)
山田 義 夫 ガバナー補佐 (8組)
山本 久 ガバナー補佐 (8組)
三村 文 男 ガバナー補佐 (8組)

次に、本来ですと地区の委員長、役員の皆様をご紹介することになっておりました

が、何しろ時間の制約がありますので、資料(75ページ)にご出席の皆様のお名前を掲載しておりますのでご覧頂き、ご紹介を省略することの無礼をお許し頂きたいと思えます。どうぞ皆様、その場にてご起立下さい。ありがとうございます。

またホストの田辺ロータリークラブの方々地区協議会のために準備し、本日は50余名のメンバーが運営にあたっております。

辻 啓次郎 地区協議会委員長
新井 康 司 ホストクラブ会長
吉田 透 次期代表幹事

以上、ご紹介をさせていただきました。

古谷 :

ではここで勝野露観ガバナーよりご挨拶を頂戴します。よろしくお願い致します。



勝野露観ガバナー :

おはようございます。早朝より地区協議会にご出席下さり、心から感謝申し上げます。いよいよ2009-2010年度の動きが本格化して参りました。本日は地区の主要な方々、並びにクラブのリーダーの方々にお集まり頂き、次年度に向けてより素晴らしいロータリーを作り上げるためにご協議頂き、ご努力頂く次第です。もうすでに次年度の準備は各クラブにおいてされておりますし、「どのようなターゲットに向けて活動していこうか」、「どのようなリーダーシップを持って導いていこうか」ということで、いろいろなプランを立てて頂いていると思えます。

本日は各部門におきましては、様々な意見を遠慮なく出して頂いて、次年度に素晴らしい活動にして頂きたいと思います。私の年度では「本来のロータリーの原点に戻ろう」ということで、本来のあり方を目指してきた次第です。次年度はその動きをより一層深めて頂きたい。ロータリーのみならず地域社会やまた世界全体において良い流れを構築していかなければ、行く末は非常に不安です。昨今は政治や経済においても、その方向性を見失っており、どう進路をとっていけば良いのかが目に見えていない状況です。皆さんは各界の代表でありまた各業界のリーダーですので、しっかりと指針を立てて頂いてロータリーと同時に地域においても指導者としての役目を果たして頂きたいと思います。

ご承知の通り次年度のテーマは

『THE FUTURE OF ROTARY IS
IN YOUR HANDS』

です。ロータリーは決して上からのトップダウン方式ではなく、1つひとつのクラブ、1人ひとりの会員がしっかりと意識を持って活動していくことが大切です。ですから実に時を得たテーマだと感じていますし、どうか各人がしっかりと自覚を持って行動して頂きたい。次年度がより素晴らしい2640地区となりますことを心から念ずる次第です。

古谷：

ありがとうございました。続きまして2009-2010年度の方針について村上ガバナーエレクトよりお話を頂戴致します。

村上GE：

本日は、北は堺から南は新宮まで、各地より田辺の地に遠路お運びを頂きまして、本当にありがとうございます。

昨年の11月に次期ガバナー補佐の皆様と第1回目の会合を、12月には各クラブの会長エレクトの皆様方とPETSという

会合を持ちました。年が明けて1月18日からはサンディエゴでの国際協議会にも参加しました。2月には地区チーム研修セミナーと次期ガバナー補佐の皆様との第2回目の会合を持ちました。3月には第2回目のPETSを開催させて頂きました。そして本日の地区協議会となりました。今日の地区協議会が無事に終了すれば、手続要覧に規定されていますガバナーエレクトに対する次年度に向かった公式のイベントが全て終了することになります。いよいよ7月からの新年度の出発となります。

私は機会を通じて、私のロータリーに対する考え方を皆様方に披瀝して参りました。これを受けて地区委員会、また各クラブでは綿密な計画を立てて頂いているようです。今日の昼からは各部門別の会議を十分に時間をとって設定しています。と言いますのも、皆様方が主役であるからです。どうぞ忌憚のない意見を出して頂いて、計画に不備があれば修正を、不足している点があれば補足を、そして確認して頂き間違いがなければ自信を持って次年度に進んで行って頂きたいと思います。本日の地区協議会はその意味で、準備段階の集大成ということになります。

1月18日から開催されたサンディエゴでの国際協議会で、ジョン・ケニーRI会長エレクトは次年度のテーマを

『THE FUTURE OF ROTARY IS
IN YOUR HANDS』

(ロータリーの未来はあなたの手の中に)と発表されました。「未来のロータリーを作り出すのは、RIの事務局のあるエバンストンではありません。皆さんの各ロータリークラブです。」と、世界中のロータリアンに話かけられました。今、世界中には32,000を越えるロータリークラブがあります。皆様方のクラブは1/32,000の存在ではありません。32,000/32,000の存在、すなわち1の存在です。世界中には大きなクラブ、小さなクラブ、歴史の古

いクラブ、新しいクラブといろいろあります。どのクラブ1つをとってみても、かけがえのない存在であり、皆様方のクラブが最終、最高の存在です。たとえRI会長や地区ガバナーであっても、皆様方のクラブに「あぁしろ、こうしろ。」と強制することは出来ない仕組みになっています。したがって、ジョン・ケニーRI会長エレクトが述べたことは、ロータリーの本髄を語るものであって、非常に格調の高いものと言わざるを得ません。しかしこのことを逆説的に考える必要があると、私は思います。皆様方のクラブは確かに存在価値の高いクラブですが、そうである以上、皆様方はそれだけの責任と義務を果たさなければなりません。皆様方が他所からの命令や支配を拒むならば、また他所からの光によって輝くことを嫌うのであるならば、自分のクラブの中に灯りを燈して、その中から世界中に自分たちのクラブをアピールする努力と義務が課せられているということです。ジョン・ケリーRI会長エレクトが次年度テーマを発表した後に「ロータリークラブは自主的に活性化をしなければなりません。」と付け加えたことは忘れてはなりません。

今、ロータリーは少し翳りがみえてきています。これは偏に各クラブの責任であると言っても、過言ではないと思います。ロータリーが翳ってきているということは、皆様方のクラブが翳ってきているということです。各クラブが活性化をして活力を取り

戻して頂かないと、ロータリー全体の活力は湧いてきません。どうすれば各クラブが活力を持てるのか。それはロータリーの神髄を理解する中で、時代に遅れないでマッチしたクラブに生まれ変わって行くことです。言い古された言葉ですが『賢者は歴史に学ぶ』という言葉があります。ロータリーは厳しい時代もありましたが、100余年の輝かしい歴史を持っています。この歴史を今一度、紐解きましてその中から神髄を見つけ出して頂きたいと思います。その上に立って今流の時代に遅れないクラブを作り上げて頂きたい。ポール・ハリスが、「昨日よりも今日、今日よりも明日、新しく生まれ変わらなければならない。」と言った言葉を、我々は肝に銘じなければならないと思います。私は次年度の当地区の活動方針を『歴史に学び、変革と進歩を』としたのは、このような経過を踏まえてのことです。

最近、私はロータリーについて深く考えることがあります。国際ロータリー定款第5条第2節によりますと、ロータリークラブは「社会で一般的に認められた有益な事業または専門職務の方々によって構成する」と書かれています。2007年の規定審議会において、社会奉仕活動をする人も会員として認めることになりましたので、多少の修正はあります。定款の「有益な事業または専門職務」は難しい表現ですが、簡単に言いますと、「現役の経済活動人」であ



ると考えれば良いかと思えます。これらの方々はご自分の事業や職場を守るために日夜ご苦労をされている大変多忙な方々です。その方々が誰に強制されたのでもなく自ら進んでロータリーに参加され、超多忙な中を寸暇をさいてロータリー活動に勤しんでくれています。しかし、その対価を求めている方はおられません。ただ世の中が少しでも良くなれば、というささやかな気持ちからロータリー活動を実行しています。一口にロータリアンと言いましても、その意欲や意識において、もちろん温度差があります。しかしロータリアンと言う以上、我々は今、申し上げた気持ちを無くしてはロータリーバッジを付けていくことが出来ません。我々はロータリーという舟に乗り合わせた仲間であり友達です。この仲間、友達の輪を一層強くして大きくすることによって、我々の目的である久遠の世界平和を追求していくことが出来ます。ロータリアン1人ひとりの力は小さいかもしれませんが、縁を強くして、友情の輪を強くして、そしてそれを一層大きくすることによって些細な力が大きな力となって、目的が実現されるのです。友情はお金や物で手に入れることは出来ません。ロータリー活動の中で心を開いて語り合える本当に良い友達を見つけ、その友達と自分の職業の研鑽や人格の向上を図りながら、その延長線上で社会のために少しでもお役に立つことが出来れば、こんなに愉快的楽しいことはありません。大変お忙しい皆様方がロータリー活動に精力を注いで活動して頂けるということは、この喜びを知った人々であるからだと私は考えます。

1905年2月23日、シカゴでポール・ハリスは3人の友達と薄暗い事務所で話合いました。そこからロータリーが出発するのですが、ポール・ハリスが3人の友達に熱烈に話しかけた最終の目的は、「心を開いて語り合える友達を見つけないだ。」ということだったと言われています。ロー

タリーと縁結び、ロータリーと友達作りというのは、その出発時点から掲げられた目的であったのです。私は次年度の地区の活動キーワードを“縁づくり”としたのはその故からです。7月から始まる2640地区の活動におきましては、楽しく愉快的、そしてその中に実りのある活動にしたいと考えています。

ここで各論について少し触れたいと思います。まず会員増強についてです。当2640地区は1番多い時で3,700人を超える会員を擁していました。しかし今年の2月末では2,350人を切ってきています。こうなってきましたと地区の運営も大変厳しいものがあります。なかなか予算立ても難しい状況です。会員さんの中には「ロータリーは数ではない。」と言われる方もおります。しかし私は、組織においては人的な資源、人は宝だと思っています。会員が減少するクラブにおいて、活性化をしていると豪語することは出来ません。先ほど申しました国際ロータリー定款第5条第2節の条件に反する人々をロータリーに迎えることは出来ませんが、その範囲内であるならば、現在ロータリーについて全く知らない方でも結構です。ロータリーについての勉強は、ロータリーに入会してから皆様方と共に頑張ってもらえば良いと思います。次年度は各クラブで是非とも会員増強に努めて頂きたいと考えています。ジョン・ケニーRI会長エレクトは次年度、各クラブ純増1名と提案されています。しかし当地区では、最近の落ち込み状況から考えれば純増2名でお願いします。そして早いうちに、2,500名まで回復出来るように期待し希望しています。

またジョン・ケニーRI会長エレクトは各地区に新しいクラブを1つ作るようにも提案してきています。現在のような経済状態の中で、新クラブの発足など夢のまた夢だと思われるかもしれませんが、しかし、当地区では本年度、1つのクラブが消滅しま

したし、おそらく近い将来、もう1クラブが無くなります。この2～3年の間に消えたクラブ、また合併して無くなったクラブを併せれば5クラブになります。クラブがどんどん減るのを横目で見ながら何もしないということは、私には出来ません。厳しい経済状況の中で新クラブを作ることは大変無理がありますが、出来れば私の年度で2つのクラブを旗揚げ出来ればと希望しています。今年度から復活しました地区の拡大委員会の皆様方は精力的に動いて頂きます。そこで皆様方をお願いがあります。拡大委員会の活動に対して、既存のクラブから反対があったり協力して頂けないと拡大委員会では悩んでいます。新クラブ発足にあたっては既存クラブの権益は最大限尊重し、影響の少ない方法で進めさせて頂く予定です。新しいクラブができるということは、皆様方の弟や妹ができるということです。拡大委員会の皆様方がお願いに伺った時は、ロータリーの温かい慈悲の心で迎えて頂いて、ご協力を賜りたいと思います。

次に職業奉仕について申し上げます。アメリカ発の経済危機は世界の隅々まで、その悪影響を及ぼしています。特に当地区では中小零細企業の方々が多くおられます。願わないことですが、会員の中には倒産等により退会される方もおります。このような状況においては、人間の弱さとも言いましょうか、何とか自分だけその場を凌いで立ち直りたいと考えるものです。そして「少くなら倫理に反してもいいだろう。少くなら法律に違反してもいいだろう。」と、泥舟に乗って漕ぎ出すわけです。ロータリアンはそうであってはならないと思います。泥舟に乗ってその場を凌いだとしても、近いうちに人格を否定するような評判と噂の中で地獄を見ること多くあります。立ち直るには正道を歩まなければなりません。ロータリアンの皆様をお願いしたいのは、もちろんご自分はその選択をしなければなりません、ご自分の近くで誤っ

た選択をしている人を見かけた時には、正しい選択をするよう声がけする勇気を持ち合わせて頂きたいと思います。そしてご自分の身の丈で結構ですので、何か手助けもしてあげて頂きたいと考えています。先日、北岡次年度地区職業奉仕委員長より、各クラブにお願いしたアンケートを見せて頂きました。各クラブにおいては、①四つのテストの唱和、②職場見学、③職業奉仕月間にはスピーカーを招いて卓話を聞いています。等々と書かれていました。職業奉仕のために努力して頂いていることには大変敬意を表します。また今後も続けて頂きたいと思います。このように我々ロータリーは、職業倫理・職業奉仕に力を入れているのに、新聞紙面で皆さんも見られたようなロータリアンが関係する違法な、あるいは職業倫理に反するような事件が多発するのは何故でしょうか。私のクラブでも職業奉仕委員長のリードによって、四つのテストを月1回唱和しています。空念仏という言葉がありますが、そのような感覚を時々持つことがあります。皆さんが唱えている四つのテストは日本語訳されたものです。私は以前から、四つのテストをそのまま実践して本当に商売が出来るのか疑問に思うことがたびたびありました。このようなことを申し上げるとお叱りを受けるかもしれませんが、私が申し上げているのは、四つのテストが悪いということではありません。四つのテストの日本語訳に問題がないのかな、ということです。本日、次期クラブ職業奉仕委員長にも来て頂いています。職業奉仕委員



長は、クラブ理事を兼任されることになっており、大変重要な職務です。次年度は是非とも英文の四つのテストを取り寄せて、日本語訳との対比をお願いします。そして四つのテストの本当の意味をご理解賜りたいと思います。職業奉仕の研究者は多く、文献も出ています。それらを取り寄せて頂いて、四つのテストの真髄はどこにあるのかをまずご自分でご理解頂いた上で、皆様方と話し合ってください、身に沁みた職業倫理の習得に努めて頂きたいと考えています。

米山もロータリー財団も皆様方の浄財をお願いする委員会です。各クラブにおいても現在の経済状況の中、ご苦勞される委員会です。2640 地区は今まで、34 の全国の地区の中でも上位にランクされる献金を維持してきました。しかしここ数年、中間まで下がってきています。どうか今一度、格調の高い地区に回復出来るようにお願い申し上げます。米山につきましては寄付金目標を1人当たり2万円、ロータリー財団は年次・恒久プログラム基金の寄付金目標を1人当たり200ドル、従来通り目標設定させてもらいました。どうか目標を達成できるよう、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

ポリオ・プログラムは20余年前から、ロータリーが最重要項目として取り組んできたのは、皆様ご存知の通りです。ところで、2007年にビル・ゲイツ財団から、「1億ドルを寄付する、そのかわりにロータリーも1億ドルを3年間で用意して下さい。」という“1億ドルチャレンジ”の申し出がありました。単純に計算しますと、現在、全世界中に120万人のロータリアンがいますから、1人当たり90ドルということになります。これを3年間で集めるわけですから、すなわち勝野年度、村上年度、米田年度で集めるわけですから各年度では30ドルということになります。このような考えの下で勝野年度では一部、そのご寄付を頂戴しています。私もその実行を継続す

るように考えていました。ところが今年の国際協議会においてビル・ゲイツが突然に登壇しまして、「以前、ビル・ゲイツ財団から1億ドルを寄付すると言いましたが、あと2億5500万ドルを追加寄付します。」と話されました。「そのかわりにロータリーも同額とは言いませんが、あと追加で1億ドルを2012年6月までに用意して下さい。」という2弾目のチャレンジの申し出がありました。このことについて本日の資料は印刷の関係上、古い資料となっておりますが、3月の諮問委員会において中島パストガバナーより、「当地区のDDFの余裕が約45万ドルあるので、そのうちの30万ドルを提供しませんか。」と提案があり、いろいろと検討しました。そして皆さんの賛同を得るために、先日開催されました地区大会の第1日目の会長幹事会に提案され、全員の拍手を持ってご承認頂きました。これで当地区としましては、第1回目と第2回目のビル・ゲイツから提案のあった特別寄付のチャレンジ分は全て義務を果たしたことになります。しかし今後もポリオ・プログラムはまだまだ続いていくと思いますし、またRIの最重点項目でもありますので、引き続きご協力をお願い致します。

本日の資料に書かれている各部門の内容で、ただ今、説明出来なかった項目につきましても、私自身十分に目を通しまして賛同していますので、それぞれの計画に基づいて実行に移して頂きたいと思います。変革を求められるのは各クラブだけではありません。地区も大いに変革していかなければなりません。次年度も実のある1年となるよう念じていますので、どうか皆様方のご協力、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

古谷：

ありがとうございました。これで午前中の予定は終了致しました。この後、各部門別の会場へご移動下さい。

部門別協議会

会 長 部 門

カウンセラー・アドバイザー

小島 哲 パストガバナー
 平尾 寧章 パストガバナー
 村上 有司 ガバナーエレクト
 米田真理子 ガバナーノミネー

ガバナー補佐・委員長

坂口 富茂 IM1組ガバナー補佐
 山田 義夫 IM8組ガバナー補佐
 豊澤洋太郎 クラブ拡大委員長

SAA:

長井 保夫・中松 村夫

進行:

植田 英明



挨拶

(ガバナーエレクト 村上 有司)

本日が私のガバナーエレクトとしての準備の集大成、最後の仕上げになります。ここにお集まりの皆様は各クラブのトップリーダーですので、皆様方を通じていろいろとお願いすることもあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

例会はロータリアンにとっては憩いの場所であると同時に、自分自身の人間性を形成するための道場だと言われていています。しかし各クラブの例会は、そのいずれの機能も果たしていないような気がします。いかがでしょうか。マンネリ化していませんか。私は変革を訴えています。クラブの運営についても変革をお願いしたいと思いますが、特に例会の運営については特に尽力して頂きたい。会員の減少によって予算的に無理が出てきた時には、その解決の1つの方法として、いくつかの



近隣のクラブが時々集まって例会を開催するといった合理的な運営を考えれば、面白いものが出来る上がるかもしれません。中には、「例会は決まった場所で、決まった時間に行うものだ。」といったお考えの方もいらっしゃいます。しかし定款・細則を見て頂ければ、事前に理事会の了解を得ればそれらを変更する例会も行うことが出来ます。

公式訪問は8月26日から12月17日の間で行います。基本的には各クラブを訪問する予定ですが、合同での公式訪問をご希望のところはそのように致します。例会開始1時間前くらいに行かせて頂き、会長・幹事さんと親しくお話をさせて頂きたいと思っております。最近はガバナー補佐の皆様へクラブ協議会を事前に行って頂くことになっています。それを受けてガバナーが皆様のクラブを公式訪問する訳ですが、そうするとガバナーが一方向的に話をして終わることになってしまいがちです。したがってご希望がありましたら、例会終了後に30～60分程度の座談会を持ちたいと考えています。

IMは2月、3月頃の開催となると、あまり意味がないと思っておりますので、出来るだけ12月中には開催して頂いて、そこで出てきました問題につきましては、私の年度中に解決したいと思っております。方法は各担当クラブにお任せしますが、各委員会ごとの勉強会、事前会議は是非とも行って下さい。どの委員会が事前会議を行うかはお任せします。本会議の内容や終了後の懇親会の有無もお任せしますが、出来るだけ多くの皆様に最後まで参加して頂けるような面白い企画など、ご配慮頂きたいと思っております。

地区大会は2010年4月17日・18日に白浜のコガノイベイホテル、田辺の紀南文化会館において開催致します。当日は1300～1400名の参加を予定しており、全員参加のつもりで皆様方にもよろしくお願い致します。またゴルフ大会は4月5日に予定しています。

会長としての心得（1）

（パストガバナー 小島 哲）

1985-86のRIテーマは「あなたが鍵です」でした。そして来年度は「ロータリーの未来はあなた方の手中にあります」です。この様に歴代のRI会長さんは皆様のクラブ、そして会員さんがロータリーを発展させる原動力ですとおっしゃっております。RIから言われたことを丸呑みするのではなく（CLPなどが良い例です）、皆様が「どうすればより良きロータリーを創ることができるのか」をお考えになって来年1年をお過ごし下さい。

皆さんは来年度のクラブ会長さんですから、クラブの活動をどの様にするのかを充分にお考え下さってクラブの運用を決めて頂きたいと思っております。この地区には73のクラブがあります。皆さん同じ様な活動ではなく、例えば私のクラブは世界的な奉仕活動はやらないで地域社会に特化して社会奉仕に全力をあげる、とか 米山も財団も奨学生を目玉にしているが、財団よりも米山の方が良いと思われたら財団寄付を人頭分担金のみにして残りは総て米山に寄付する といったクラブがあってもよろしいのではないのでしょうか。

いずれにしても、皆さんご自身がお考えになって効果的なクラブ運営をされることを願っております。

会長としての心得（２）

（パストガバナー 平尾 寧章）

私は水田ガバナー年度の時に会長でした。次の前田ガバナー年度にガバナー補佐を務めました。その時の3月のPETSで前田ガバナーエレクトは「リーダーというのは一に辛抱、二に辛抱、三、四がなくて五に辛抱」と言われました。ポール・ハリスは寛容（トレランス）という言葉を使っていますが、忍耐＝寛容だと私は思います。クラブは多様な皆様の集まりです。いろいろな事柄についても賛成する人も、反対する人もいます。また前田ガバナーエレクトは1番目に、「責任ある地位に就く人は大きな度量を持ちなさい。少々のことで腹を立てたりしてはダメです。何でも受け入れる広い心を持ちなさい。」、2番目に「勇気がないとダメです。難関は必ずあります。それを乗り越えてやろうという勇気を持ちなさい。」、3番目に「迷いがあってははいけません。自分がやりたいと思ったことは何が何でもやってやる、と考えなさい。」と言われました。私は当時、例会のマンネリを何とかしたいと思っていました。特に出席率はどんどん低下していました。たいてい例会では後ろの席から埋まっていきます。私は席替えを行いまして、以前に6テーブルだったのを、前方に3テーブル、後方に2テーブルとしました。クレーンもありましたが、ちょっとした勇気だったかと思います。

ロータリーは逆ピラミッドの組織ですが、会長はやはりトップに立って理事会を引っ張っていかねばなりません。ポール・ハリスの“寛容”、前田パストガバナーの“度量・勇気・迷いをなくす”という言葉の肝に銘じて、どうか1年間頑張ってくださいと思います。



拡大について

（次期クラブ拡大委員長 豊澤 洋太郎）

皆さんのクラブで、拡大委員会のあるクラブの方、いらっしゃいますでしょうか？ありがとうございます。私の聞いた範囲では2クラブとお聞きしています。

皆さんのクラブは必ず親クラブがあるはずで、当地区で親クラブないのは1クラブのみです。その親クラブの拡大委員会の方に、皆様のクラブを作って頂いたことになります。通常の方法で出来ました最後のクラブは有田 2000 さんです。1999 年に出来たクラブで、それ以降、新しいクラブはこの地区では出来ていません。企業に例えますと、「費用がないから、研究・開発部門を廃止した。」というのが今の地区の状態だと思います。これで将来はありますでしょうか。そこで次年度の会長さんをお願いですが、増強委員会はほとんどのクラブがお持ちだと思います。そこで増強の後ろに“・拡大”と付けて、新しい委員会は作らないで結構ですので、そういう研究をして頂けるご協力をお願いできませんでしょうか。“増強・拡大委員会”と看板を架け替えて頂き、メンバーもそのまま結構です。そして我々と一緒に研究して頂きたいと思います。今、拡大委員会では拡大委員1名で20名の会員候補を集めています。無理と言われるかもしれませんが、とにかくやってみようということです。大変ですが不可能ではないと思います。この

委員会は米田さんの年度も続きますので、協力してみようという会長さんがいらっしゃったら是非とも申し出て頂きたいと思います。

いろいろな年度がありますが私の感じたところ、第1回目の理事会に会長、幹事さんが1枚の推薦状を出したクラブはかなりの枚数が出ています。1枚の推薦状を早期に出せるかどうかということです。ですから今からご準備して頂ければ、皆さんのクラブも活性化するのではないかと思います。

午前中にガバナーの話にもありましたが、私共も一生懸命に推薦状を集めています。したがって皆様方のクラブとバッティングすることもあります。その時は紳士協定でお互いに話をしたいと思います。そのような時は拡大委員会まで申し出て下さい。

我々は皆さんが不可能だと思っている夢に向かって走っている委員会です。夢追人かもしれませんが、このような委員会もあるんだということを、皆様の頭の片隅に置いて頂きたいと思います。皆さんのクラブの増強、拡大委員会の看板の架け替え、そして次次年度の会長さんに引き継いで頂きたいのですが、1名の委員会で結構ですので拡大委員長さんをお決め頂ければ幸いです。

地区協議事項

(ガバナーエレクト 村上 有司)

2009—2010 年度地区予算 (案)

クラブ分担金の承認

2007年にビル・ゲイツ財団から1億ドル寄付の申し出がありました。その時の条件として、「同額の1億ドルをロータリーでも2010年12月までの3年の間に集めて下さい。」というものでした。RI理事会はそれを受け入れました。その時にその金額をクラブ単位とするのか、1人当たりとするのか議論がありました。クラブには人数の多いところもあれば少ないクラブもありますので、不公平感があります。全世界中のロータリアンは約120万人ですので1人当たりになれば約90ドルになります。この金額を3年間で用意するとなると1年間に30ドルということになります。当地区ではそのことを諮問委員会で決めまして勝野年度では12月までに30ドルを集め、私の年度と米田年度でも30ドルずつ集めることになっていました。ところが今年の国際協議会で予告なしにビル・ゲイツが登場してきて、1時間あまりポリオに対する情熱的な話をされました。その時に彼は「前に1億ドルを寄付すると言ったけれど、2億5500万ドルを追加寄付します。」という話がありました。その条件として「2億5500万ドルと同額とは言いませんが、2012年6月までに1億ドルを追加で集めて下さい。」ということでした。正直私は、以前にも地区の皆様をお願いしているのに追加でまたお願いすることになるので困ったな、と感じました。またポリオに関してはいろいろな考え方の人がいらっしゃいます。しかしRIでは前向きに進めるということでしたので、いずれかの形で皆様方をお願いしなければならないと考えていました。いろいろと悩んでいたところ、本年度の財団のカウンセラーをされている中島パストガバナーから3月の諮問委員会の席に提案がありました。“現在2640地区にはR財団のDDFが45万ドルあまりあるので、そのうちの30万ドルをポリオの特別寄付に寄付したらどうか”という提案で、そうすると最初のチャレンジの分と今回の2回目の分の全てが終了するということです。

ここでDDFを説明します。R財団の寄付には年次寄付、恒久基金寄付、使途指定寄付があります。R財団に寄付を頂くと日本事務局を通じてアメリカの本部に送られます。恒久基金寄付は元本を使わずに、将来の安全のために溜めておくものです。年次寄付はむこうでそのお金を3年

間運用した後、3年後に当地区から寄付をしたお金のうち半分が地区に戻ってきます。その返ってくるお金のことをDDFと言いますが、現金で返ってくるわけではありません。DDFは教育的プログラムや人道的プログラムに使うことができますが、人道的プログラムに使う場合はRIに対して地区補助金の申請を出す必要があります。我が2640地区は日本の34地区の中で、RIに対して人道的プログラムに使うという申請を出さずにきている唯一の地区です。したがって当地区では奨学生の派遣等の教育的プログラムにしか使っていません。以前に比べ奨学生への申請が減ってきており、また合格しても辞退する人も増えてきました。ですから他地区に比べると人道的プログラムに使っていない分DDFの残りが多くなります。DDFは年々積み立てていくことができます。現在45万ドル余りあります。そのうちの30万ドルをポリオの特別寄付に使っては、というのが中島パストガバナーからの提案です。

また2013年7月からロータリーの財団の制度が“未来の夢計画”という名前のもと大幅に変更になります。それは今年の7月から3年間かけて、内容をいろいろテストしながら変えていきますので、まだ確定はしていません。しかし決まったことが2つあります。2013年7月から“未来の夢計画”を行うということと、その時点で残っているDDFは全てRIに没収となることです。ですからそれまでに何とか使いたいわけです。その上今、DDFを使って寄付をすれば、1ドルにつき50セントのプレミアムが付いています。例えば今、30万ドルを寄付すれば、R財団ではプレミアムが付いて45万ドルを受け取ったこととなります。その期限は4月末までということでした。したがって3月の諮問委員会に提案され、先日の地区大会で急遽、会長・幹事に提案し了解を得たわけです。結論としましては、皆様方に最初のチャレンジの1億ドル分と、2回目の1億ドル分の特別寄付を今後頂戴することがなくなりました。ただこれはビル・ゲイツ財団からの申し入れに対する特別寄付についてであって、ポリオ全てに関するものではありません。

次に予算案ですが、前年度とほとんど変わっていませんが、収入の部の地区資金は年々減ってきています。お1人の負担額は変わっていませんが、会員数の減少によるものです。皆様のご努力によって会員増強をお願いしないと、収入不足となりますのでどうぞよろしくお願い致します。田辺で委員会も何回か開催することにしていますが、それによって各委員会の会場費を少しでも削減出来ればと思い、皆様にご協力をお願いしました。先ほども申しましたが、資料の中の“ポリオプラス\$30(1人当たり)”の予算案は消して下さい。各クラブでは、この金額を次年度予算の中に組み入れたと思いますが不要となりました。そこで今日はまだご相談の域を出ませんが、社会奉仕委員会において地区として南海地震に対する活動を考えており、期の途中で1人当たり1,000円程度のご寄付をお願いすることがあるかもしれませんが、その節はどうかご協力よろしくお願い致します。

国際交流及び地区青少年ファンドですが会員1人当たり3,000円から3,500円に、またWCSファンドは2,000円から1,500円に変更しています。どうぞよろしくお願い致します。

<質問>

Q：DDFの45万ドルのうち30万ドルを使うというお話がありましたが、その残りの15万ドルはどうなるのでしょうか？

A：今まだ確定していませんが、使い道はございます。2013年6月に使い残して没収されることのないように検討中です。ただ当地区は寄付を集める時に教育的プログラムに使うということをお断りした上でご寄付頂いていますので、人道的プログラムに使えないこととなります。したがって教育的プログラムで使うことを予定しています。(村上ガバナーエレクト)

A：DDFは皆様のご寄付の半分を、「どうぞ、あなたの地区で使い道を決めて下さい。」というものです。キャッシュがあればキャッシュでいいのであって、そのDDFでしか出来ないことをやるべきだと考えます。それは奨学生を送り出すことであって、キャッシュがあればすぐに出来るかというところではありません。私の年度の地区大会での決議事項では、「DDFでしか出来ないことをDDFでやりましょう。」となっています。今回の30万ドルの件ですが、この30万ドルは何かと言いますと、年次寄付で半分をWFに寄付した残りです。60万ドルを寄付して、返ってきた30万ドルを寄付するわけです。ですからポリオに寄付したいと思うのであれば、年次寄付で半分WFに渡ってから残りを寄付するのではなくて、初めからポリオへの使途指定寄付とされた方がはるかに効果的です。今回は2012年6月までの期限もありますので、30万ドルを使うことになりました。

どうか皆さんもDDFでしか出来ないこと、またキャッシュで出来ることの区別を心得て頂いて、各クラブの財団委員会をご指導頂ければと思います。（小島パストガバナー）

Q：初めのビル・ゲイツ財団からのチャレンジでは、3年間で1人当たり90ドルということでしたが、“90ドルを3年に割って集める”、“90ドルを一度に集める”というどちらでも構わないと聞いていました。後者の場合は、どのようになるのでしょうか？

A：仮にすでに90ドルをご寄付頂いたとすると、現時点でご寄付頂いている分はそのままです。（村上ガバナーエレクト）

Q：“WCSで2010年3月頃にRI第3400地区（インドネシア）との間で実施予定”となっていますが、3年前に田辺クラブと新宮クラブでバリ島に給水タンクを設置したのですが、それに併せてその後うまく稼働しているかをチェックしてみたいのですが、そのような予定はないのでしょうか？

A：具体的な予定はまだ何も決まっていますが、今後WCSの委員会と相談しながら決めていきます。（村上ガバナーエレクト）

Q：米山についてですが、現状は中国や韓国の奨学生が多いので、もう少し発展途上国の困っている人々を支援するように出来ないのでしょうか？

A：現在、そのような意見を十分に検討しています。2010-2011年度からまた以前のような現地採用に取り組む方向で進んでいます。（米田ガバナーノミニー）

A：地区の財団の奨学生には何人かの枠があります。その枠の1つを相手国に差し上げて、日本の大学ではなくて現地の大学へ行って頂くのは可能で、方法はあるかと思えます。

（小島パストガバナー）

（村上 ガバナーエレクト）

以上、ご説明させて頂きました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。（拍手にて承認）

総 評

（米田 真理子 ガバナーノミニー）

会長部門に出席させていただき大変有意義な勉強をさせていただきました。地区大会で正式にガバナーノミニーに選任いただいてからお蔭様で準備のほうは順調に進んでおります。

7月1日から ガバナーエレクトとして主催させていただく会議を村上ガバナーエレクト様のご了承を得て別添にてご案内させていただきました。取り敢えずは日時と会場のみのご案内で最低1ヶ月前までには詳細日時とプログラムを関係皆様にご案内させていただきます。各クラブ様の行事ならびにIM等の日程との重複を避けるため地区協議会で早々に発表させていただきました。会長エレクトの皆様には2010-2011年度会長予定の皆様は何卒よろしく御伝達をお願い申し上げます。

7月1日からガバナーエレクトとして本日ご出席の会長になられる皆様には何かと大変お世話になります。よろしくようお願い申し上げます。皆様の益々のご活躍を心より祈念申し上げます。

（坂口 富茂 次期ガバナー補佐）

私は6年前に会長をさせて頂きました。何かやりたいものがなければ、アッという間に終わってしまいます。小島パストガバナーのお話でも、「やりたいようにやればいい。」と言われましたので、皆さんも堅苦しく考えずに、やりたいことを決めて実行して下さい。

“奉仕”と“サービス”は違うということ、皆さんも聞かれたことがあるかと思います。西洋の魂と日本の魂とは違うし、簡単には訳せないの、いくら解釈しようとしても出来ません。シェルドンの提唱した“service”は“奉仕”という言葉では片付けられませんので、そのあたりも考えていかなければならないと思います。

（山田 義夫 次期ガバナー補佐）

私どもガバナー補佐の役割は、各クラブの皆様と地区が活性化のために、いかにコミュニケーションを図って情報をお伝えしていくかということです。そのために全力を尽くしたいと思っています。『賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ。』はビスマルクの言葉ですが、あえて愚者として一言申し上げます。私は2003-2004年度に会長をさせて頂いて改めてロータリーが好きになりました。ロータリーで人間として大きく育てて頂いたと感謝しています。ロータリーで辛いことや苦しいことは殆どありませんでした。仕事を持った職業人としては辛いことや苦しいことはたくさんあります。ロータリーの例会に行きますと、そのような気持ちが癒されて元気を頂いて職場に帰ることができます。次年度に向けて皆様方と一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

